

バンジーチャイム演奏会

2008年12月
珠洲たのサークル資料
宇出津小：真智富子

1. はじめに

今年の4月から宇出津小学校に勤務し、はや8ヶ月(2/3)が過ぎました。高学年に配属ということで、5・6年の音楽、鼓笛演奏の担当となりました。今年は、音楽教育研究会でなく理科教育研究会に入ろうかなと思っていたのですが、まあ、5年生の「音楽の集い」(能登町の5年生全員が集まって合唱・合奏・プロの演奏を聴く会)もあるし、いいかと鳳珠郡学校教育研究会音楽教育研究会に入りました。

最初の会で、年間計画を立てることになり、当然「研究授業を誰がする？」という話になりました。幹事さん曰く、中学校・小学校両方をして欲しいというお願い、しかも、研究の回数があるので、どちらかは2人お願いしたいと……。メンバーを見ると、うれしいことに初任者が2人という若いパワーにあふれている。しかし、初任研でたいへんなので来年を楽しみにし、だれかやっていない人がという風になると、どうやら自分まで順番が回ってくるということはすぐにわかりました。

では、11月ということとその場は別れました。でも、発声練習などのりのいいのは5年生、担任の6年生も課題はしっかりやってくれますが、センスは5年生のほうがあるようななどと迷いながら、まあ、なんとかなるかと思いついて1学期の間は忘れていました。

2. バンジーチャイムがあった！

そんな私も、鼓笛の練習の先が見てきた夏休みの後半には、11月の授業は「越天楽今様」(雅楽)にして町の先生に来ていただくのかな、なんて思い始めていたのです。そのころは、まだ、時期的に11月に合唱の授業をする自信がありませんでした。(今のクラスなら十分大丈夫なのですが)といい加減になりつつあった私は、8月に小松楽しい授業が主催するサマーセミナーに参加しました。二階堂さんと峯岸さんの会でした。世界史が身近に感じられ、道徳の新しいプランもたっぷり仕入れて、満足感でいっぱいでした。その、会場でバンジーチャイムのフリップブックと上演MEMOの本があり、「あっ！バンジーチャイムがいいかも！！」とピンときたのです。

すぐに購入し、中を見ました。演奏会に使用するバンジーチャイムの本数は26本です。なんと私の担任している6年2組は24人+交流学习ですずらん学級さんから2人合わせて26人です。これは「やれ！」ってことだと思いました。私はとても単純です。すぐに、楽知ん研究所のホームページで問い合わせしました。

バンジーチャイムは、購入できなくなっていました。只今製作中だということで楽知ん研究所の樋栄邦直さんから、丁寧にメールでお返事いただきました。ただ、11月上旬には間に合うだろうとのこと。そこで、予約しバンジーチャイムが届くことを心待ちにしていました。

3. 10月の音楽教育研究会で

でも、はたと考えました。

バンジーチャイムの演奏会をするとして、指導案はどうしようかと思いました。流れがわかっただけでは、参加してくださる先生方の楽しむ度合いが減らないかとか、フリップブックは著作権もあるから、実物は見ていただくけど、印刷して載せないとかいろいろ考え、10月の研究授業の反省が終わった時に、思い切って、研究会のみなさんに相談しました。

「11月の私の授業ですが、皆さんが今までに見たことがない楽器をつかって授業をするか、音楽のオーソドックスなタイプの合唱をしようか迷っています。前者だと、従来のような指導案はかけませんが……。」

と話してみたのです。そするとみなさんの反応は、「きちっとした指導案がなくても、新しい楽器を使った授業がみたい！」ということになったのです。ただし、本時の簡単な流れがわかれば

といわれたことにも、それが無いほうが皆さん楽しいと思うので、ねらいぐらいはお知らせします、また、まだ楽器が届いていないので、届いたらやりますね、と明るく帰ってきたのでした。

4.バンジーチャイムと対面

11月に入りました。いつくるかと思いつつも、連絡が入りません。まさかの時にはレンタルをと思っていたのであまりあせっていませんでした。そんなある日、旭川のHさんからメールが届きました。バンジーチャイムができないので、Hさんのものを貸して下さるといのです。しかも、もう発送したので、7日に到着しますとのことでした。もう、うれしくてなりません。7日学校から帰ると、玄関に箱が届いています。いよいよバンジーチャイムと対面しました。土台に26本を並べて、12日の授業を思い描いてわくわくしてきました。

5.音楽室の床との相性

翌日8日(土)、だれもいない学校で一人3階の音楽室に行きました。うちの学校の音楽室は、一番奥にあります。しかも、前の廊下からはお墓が見えます。手前に理科室という肝試しをするには最高のシチュエーション?ロケーションです。まあ、午前中なので大丈夫ですが、だれか私の後に入ってきた職員がいたら、音楽室から音がすると不気味だったかもしれません。

バンジーチャイムとアルミニウム・真鍮・銅の金属板、1円・5円・10円・500円の硬貨をもっていきました。

落としてみると、とってもいい音が響きます。しかも、真鍮の響きがいいということも硬貨で十分わかります。金属板だとさらによくわかります。もう、ラッキーというか、やるべきだったんだなと一人でテンションを上げ初めていました。

6.いよいよ演奏会

(1)準備

演奏会に必要な道具は子どもたちにわからないように、休み時間に音楽室に配置し、イーゼルの上に「ただいま準備中」のフリップを置きました。参加の先生方には、バンジーチャイム演奏会の上演MEMOから抜粋した文章で仮説実験授業、サイエンスシアター、大道仮説実験、そして「バンジーチャイム演奏会」のねらいをA4のプリント1枚にしてお渡しするようにしました。ですから、学習指導案でなく、バンジーチャイム演奏会であり、私は指導者でなく上演者ということにしました。すっきりしました。

時間がちかづいてくるとどきどきしてきました。実は、バンジーチャイムの演奏会に、私自身一度も参加したことがなかったからです。でも、何回も読んだ上演MEMOを近くに置いて、まさかの時のお守りにしていました。本当に心強かったです。

(2)いよいよ本番です

チャイムがなりました。いよいよ開演です。

【質問1】金属を落とした音で聞き分けられる?

ほとんどの子が聞き分けられるといい、数人が聞き分けられないといひます。

「まあ、やってみると。」と投げると、「5円がいい音がする。」とか、「10円や。」とか1円という子はいませんでした。すかさず「先生、お金で遊んだらだめやよ。」と家でのしつけを話す子がいます。そこで

「そんな人がおるかもと金属板を持ってきました。」といい購入した3枚の金属板をポケットから出し、早速実験すると、お金のときより、どれも落とした時の音が大きくなりました。違いがはっきりします。でも、響きがいいのは5円玉と同じ真鍮でした。

子どもたちもびっくりしています。

【質問2】真鍮のパイプを短くすると音の高さは?

高くなるは子がほとんどで、低くなると変わらないは若干でした。変わらないは長さが変わっても同じ真鍮でできているからということで、高くなる子は木琴を例に上げて説明したいま

した。

さあ実験です。あきらかに短いパイプの音が高いので、子どもたちは納得していました。そこで、私は、木琴や鉄琴の話をしました。そして、これを使えば楽器ができるというフリップに進みました。ここで舞い上がっていた私は、この先にある真鍮を英語でプラスの話をし、トランペットとかと色にしているでしょという話をしたのです。楽器はよく響く金属で作られていますね。といって言ってしまった。でも、この時には後ろのフリップが飛んでしまっているの、平気に進めています。

この原理を使って開発された楽器がバンジーチャイムです。と見せると自然と拍手が起こります。バンジーチャイムをつかった演奏会は能登町初ですというともうやんやんやの大拍手。演奏者もすぐに集まりました。

(3)演奏会が始まると

最初のビッグベンのチャイムは、すぐに気が付きました！ただし、学校のチャイムとして。さっそくタイミングが違った演奏者に聴衆から指示が飛びます。「落とすタイミング早いよ。」

2曲目、メンバーを入れ替えようと再募集しましたが、何人かは残りました。まあ、前に出てやってみようという意欲を大切にしました。でもこのとき、人数がオーバーしました。すると、「おれ、さっきしたしいわ。」と譲ってくれる子の姿が、やさしいなと思いました。

しかし、この曲が難曲でした。楽譜の数字を見たはずなのに、演奏すると「オーラーリー」で途中の音が間違っただけのように聞えます。聴衆の子達もオーラーリーを口ずさみます。そのうち私も変になり、心配で後ろでそっと「大きな古時計」であることを確認しました。

指揮者として、私が登場。「音楽って指揮者大事ねんよ。」とリズムをもう一度指導すると、なんとなく聞きなれた別のメロディーが……。そう「おおきなノッポの古時計おじいさんの時計～」が、ごちなく聞えます。するとアーわかったという人と演奏者でもぼかんとしている人といろいろで、大きな古時計を意識して落とすと、素敵な音が響きました。

(4)只今から本番です。

さらに募集のフリップは、全員ですつもりだったので飛ばし、バンジーチャイム演奏会只今から本番です。フリップからタキシードのフリップを私に一番近い子にあて挨拶をしてもらいました。

プラスのフリップが近づき、自分が先にしゃべったことに気が付きましたが、先に放したことを覚えていますかというみんな「プラス！」とさすがにインパクトがあったようです。「これが本当のプラスバンドです。」にも、やんやの拍手。

ここで、前に出ていた13人には席に帰ってもらいました。

そして、本日の演奏曲を知らせます。「星に願いを」

でも、曲を知らない子が多いリアクションです。でも、数字の楽譜で落としてみるように言いました。バンジーチャイムを全員に1本ずつ渡します。すずらん学級の2人がこの日は交流に来られなかったのがとても残念でした。参観の先生にも2人演奏者に入ってもらいました。

一度やると、いろんな注意が飛びます。「早いから気をつけて。」「は遅く。」とかもう一度と2回目やるとまあ様になってきましたが、まだまいちです。でも、アンコールをいただき、今度はまた、指揮者(私)が登場し、やりました。いろんな子が緊張するのか失敗します。もう一度フリップでアンコールをいただき、演奏しました。

(5)その後・・・

合唱で今練習しているのはふるさとです。最後に、「ふるさと」のフレーズができると上演MEMOに書いてあったので、それを演奏し、合唱でお別れしようと思っていたので、新たに10人募集しました。人数をオーバーしました。「さんはさっき譲ったから今入れてあげたら。」とか「私さっきしたから譲るよ。」とか思いやりのある言葉のやり取りをしています。

曲名をつけずに、演奏すると「ふるさとやがいね。」の声。

そこで、「今音楽で勉強している合唱を最後に披露して終わろう。」と歌うと、今までの怒鳴り声はどこへやら、とってもいい声が音楽室に響いています。とってもうれしくなりました。そして、心地よかったです。

参観の先生方に向き直って、「ありがとうございました。」のあいさつをしました。大きな拍手をいただきました。

(6) 授業が終わって

感想は今までも仮説実験授業をしながら書いてきている子どもたちですが、今回もすごい勢いで書いてくれました。また、感想を出しに来た子どもたちの何人かは、お金や金属板を投げ比べて確かめたりしていきました。

子どもたちの感想は学級通信を読んでください。

すごく盛り上がりました！とっても楽しかったです！

(7) 音楽の先生方の感想は・・・

みんなで楽しもうと心に決めて望みましたが、音楽の公開授業として、音楽大学卒や教育学の音楽専攻の人は、どう思ってくれたのでしょうか。まあ、私だから何か変わったことやと思ってきてはいるのですが・・・。感想を書いてから、みなさんバンジーチャイム、フリップブック、上演メモに集まっているいろいろ見たり、試したり、思い思いに楽しんでいらっしやいました。

バンジーチャイムは、初めて見たけど、みんなで取りくめるし、楽しい楽器だと思いました。音もキレイだし、児童たちも楽しそうに取り組んでいたし、私もやってみたい！！と思いました。何回かやっていくうちにリズムも合ってきて、みんなで合奏している！という一体感が生まれていたように思います。また、フリップブックが楽しいな～と思いました。

今日、初めてバンジーチャイムという楽器にふれました。ただ「落とせばなる」というものではなく、楽器の材質や音の高低についての学習もして、6年生らしく、なおかつ誰もが楽しめる1時間でした。最後に子どもたち全員で演奏したときの顔は、音楽にすっかり入り込んでいる表情でした。私も演奏に参加したいなという気持ちで参観した1時間でした。ぜひ、多くの子どもに触れさせたい楽器の一つだと感じました。

楽しい！子どもたちと一緒に演奏してみたいと思いながら見ていました。バンジーチャイムの存在を今まで知りませんでした。テキストの内容にも驚かされ、演出や演技にもビックリ。まさに目からウロコ。音楽の原点にもどったような気がしました。アルミを買ってきて自分で作ってみたいと思います。

これは誰にでもできますね。でも、ただ落としていてもいい演奏にはならない。落とすタイミングも重要なので、リズム感も必要。これは演奏していく上で、聞いている途中で子どもたちはわかっていました。自然と耳だけで音が鳴るいいタイミングをつかんでいました。それとみんなと合わせる協調性がないとできません。クラスの一体感も味わえる教具なので、とてもよいと思いました。

真智先生からバンジーチャイムのことをうかがってから、とても楽しみにしていました。今日は、子どもが2人いなくて一緒に参加させていただきました。たった1つの音けではないので、やってみるまで、聞いてみるまでわからないというのがよかったです。やってみた子どもたちが本当に楽しそうでした。私も1セットほしくなりました。

初めて「バンジーチャイム」というものを見せていただき、音を聞かせていただいて、とても素敵な楽器だと思いました。楽しく学習できるスケッチブックにそった流れも次場らしかったです。子どもたちが、本当に楽しそうに授業を受けていたので、私もぜひやってみたいと思いました。ありがとうございました。

短い曲から（数人でチャレンジする曲から）始めたので、どの子も「やってみようかな。」と覚えてよかったです。ただ落とすだけだけど、きれいな響きが残るすてきな楽器でした。今日は子どもたち全員が1音ずつ担当できたので「みんなで創り上げる楽しさ」や「すてきな曲にできた喜び」が仲間づくりに一役買う(?)ように思いました。高学年にちょうどよい楽器と思いました。

これは、授業後すぐに書いていただいて、その後、授業整理会をしました。そこでもいろんな話が出てきました。

- ・ただ落とすだけなら音楽じゃないけど・・・。みんなで出すタイミングなどを考えて落としていて音楽になっている。

これって、つまり落とすだけならただのものからでた音だけど、それをつないで美しいと思ったり、あの曲だとわかったり、拍手ももらえるうれしさだったり、それが音を楽しむ（音楽）ってことになるのだな。と思っています。

- ・楽器って子どもたちにとっては、大事にきなさいとか、やさしく扱えとか、落とすなんて行為はタブーです。しかし、バンジーチャイムはそのタブーをすることで、きれいな音が出る。これってすごくたのしいですね。

言われてみて、本当にその通りって思います。楽器を落とすなんてとんでもないことです。子どもたちは一度でとりこになったようでした。

- ・わいわし楽しく話したり、笑ったりしているのに、シーンと静かになる瞬間がなんともありました。曲を始める直前です。あの静けさがすごくよかったです。

子どもたちは本当に真剣でしたね。集中力をみがくのにいいかもしれません。どの授業より集中していたように思います。

そのほか、たくさん話をしながら言われたことは、真智さんらしい、理科の先生らしいなどほめていただきました。しかし、「これはバンジーチャイムとフリップブックと上演メモと金属板など、考え商品化してくださった楽知ん研究所の方がすごいのですよ。私はそれを使わせてもらっているのですから」と話し、授業整理会が終わりました。

7. はじめて上演してみても

大道仮説実験で「ころりん」はたくさんやってきましたが、「びりりん」「しゅぽしゅぽ」などは、まだ挑戦したことがありません。

今回の「バンジーチャイム演奏会」もやってみたいと思いつつ、なかなかやろうとい機会と自分のふん切りがありませんでした。しかし、今回、上演して本当にやってよかったと思っています。みんなですごく、楽しめたからです。また、音楽の先生の前でできたのもよかったと思っています。

そこで、簡単に思ったことを箇条書きでまとめて、終わりにしたいと思います。

- すごく楽しめる やる前からわかっていただけ、上演者も演奏者も大満足できる。
- 道具がすばらしい なんにもかもが簡単にたのしめる設定になっています。
- 1音ですごい満足 自分が担当する音は1音でも、曲ができるとすごい満足感を得ることができる。できたという達成感がある。
これがけん盤ハーモニカやリコーダーだったらありえない。
- 数字の楽しい譜面 にむすびつくのは、数字で示され、音階と一致していない順番がミステリーで、分わかってきたときのうれしさ倍増。これこそ楽しい譜面(楽譜)なのだ。
- 誤認もたのしい 2曲目の落としまちがえで本当は「大きな古時計」なのに「オーラリー」にちかいメロディが生まれた。それによって、リズムや曲想を考えようとする音楽性が育った。変奏曲の勉強もできる。

変奏曲の学習をするなら

バッハの「メヌエット」と「ラバースコンチェルト」

バッハのメヌエットは

2・0・6・4・3・11・(0・0) / 7・20・13・10・9・14 ~ (0)

ラバースコンチェルトは

2~0・6・4・3・11~/ (0)・7・20・13・10・9・14・16~(0)
0番の人には何度か動いてもらわないといけないのですが、感じをつかむだけなら、(0)番はなくてもいいですからね。これは、実際にやってみていないので改良が必要だと思います。鍵盤でのイメージなので。私は、0番の人には動いてもらおうと思います。

これだと、実際に目の前でバンジーチャイムが落ちていくので、すごく音階が一緒でもリズムが違えば、曲が変わるというのがわかります。

音楽界のタブーを打ち破る

楽器は大切に扱うことといわれ続けている子どもたち、大人にとって、落としていい楽器の存在は、価値観を覆すなにもものでもない。落として演奏する楽器があることで、ただでさえわくわくしているのに、楽しさが倍増していくのです。

まだまだ、可能性のあるバンジーチャイムにはまっていきそうな私です。